

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900309		
法人名	医療法人朋詠会		
事業所名	グループホーム コスモス苑	ユニット名	東棟
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1116		
自己評価作成日	令和2年8月4日	評価結果市町村受理日	令和2年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

綾町で唯一のグループホームとして認知症の方々を支援させていただいております。今までご家族の要望や独居生活が困難な中での急な入所にも対応して参りました。認知症の利用者様は環境による状態変化が非常に大きいと感じる為、一人ひとりの利用者様が家庭的な雰囲気の中で楽しく・落ち着いた生活ができるよう日々努力しております。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とともに、地域に根差したサービスを提供していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな静かな環境で、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と連携しながら、利用者が望む生活を心掛けたケアに取り組んでいる。町や地区の祭りや花火大会等地域の特性を生かした行事に参加し、地域住民との交流に努めている。運営母体の医療機関と連携し、緊急時に対応できるよう努め、利用者職員が安心できる環境づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで作成した事業所理念を掲示し、意識付けの為毎日朝礼後復唱する事で理念の共有、実践に繋げている。	地域や人との馴染みのある関係をふまえた理念を職員全員で考えて作っている。毎朝の朝礼で唱和し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事や公民館で実地されていた百歳体操に参加するなど地域住民との交流に取り組んでいたが、コロナウィルスの影響で現在は実践できていない。	町や地区の文化祭に参加したり、秋祭りでは、ホーム中庭で地域の踊りの披露をしてもらったりして、地域との交流が続けられるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献活動としてキャラバンメイト(認知症サポーター養成講座)に参加し認知症の理解や支援方法を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催される運営推進会議の中で、利用状況の報告や情報・意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。	毎回参加者に事業報告の文書を配り、ホームの状況がわかるように配慮し、出された意見は、職員で共有しサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、市町村担当者と協力関係を築いている。行政措置入所にて入所された利用者の支援等市町村担当者と連携している。	運営推進会議に参加している担当者と日頃から連絡を取り、町からの受け入れ要請への協力等がスムーズに行われるよう関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は外部研修や勉強会を通じて学ぶ機会を持ち、身体拘束を行わないケアに努めている。	外部研修に参加した内容を、内部の勉強会で伝達し、身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や勉強会を行い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度と安心サポートを利用している利用者がいる為、制度についての理解が深まりつつある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に時間をかけて説明しており、改定時にはその都度文書と口頭で説明し同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望があったら全体に周知して早めの対応をする事で、より多くの意見や要望を出してもらえるように配慮している。月に1~2回程度は家族に電話等での連絡を行い意見聴取の機会としている。		毎月利用者一人ひとりの生活状況を報告し、意見や要望があれば、面会時や遠方の家族には電話をかけて聞くようにしている。出された意見にはすぐに対応し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案を述べる機会を設けており、それ以外でも普段から職員の意見を運営に反映できるよう努力している。		ユニットごとのミーティングで出された意見や提案を幹部会議や職員会議でも話題にし、総務や管理者が関わり、運営に生かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回職員意向を人事担当者が聞き取りを行い職場環境・待遇改善に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や出張講座などを取り入れ、現場で活かせるよう努めている。また職員の技術向上の為に事業所負担での資格取得も進めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の外出支援の一環として他施設を訪問し、活動を通じて情報や意見を交換する機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に合った適切なケアができるように入所時に十分な聞き取りを行っている。入苑後、早く馴染めるよう職員の方から積極的に対話する様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や入所時に家族から十分な聞き取りを行い、安心できるケアが提供できるよう努めている。 利用者様の支援を構築するにあたり家族の思いを支援方法に反映している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のインフォーマルサービス活用等も検討し、家族との話し合いを実施している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、食事前の台拭きなどできる範囲で軽作業活動をして頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や一時帰宅などの外出に協力して頂いている。また家族が遠方にいる場合は本人と直接電話で話す機会を増やすなど関係が疎遠にならないよう配慮しており、本人が安心して生活できる様、家族に協力を依頼し一緒に支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時より利用されていた美容室や友人が入所している施設の訪問など外出支援に努めている。また町や地区のイベントなどに参加し、地区の方と交流を図る機会を設けている。	馴染みの美容室に通う人や隣接の事業所の知人と交流する利用者もいる。盆や正月に帰宅する人もおり、家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や集団レクリエーションに参加して頂いたり、利用者同士の相性を考慮し会話する機会を多く持つように努めている。利用者様同士の間人間関係にも配慮し配席等考慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族同士の支援等についてもフォローしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	美容室、銀行、買い物などの外出支援など本人の希望に沿ったサービスを提供している。		利用者が何を考え、どうしたいかを言葉や態度で把握するようにしている。困難な場合は、日頃のケアのなかから、推測し考えてケアするように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報はケアマネジャーより職員全員に周知され本人の生活歴やこれまでの生活環境の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の行動や言動を記録し、カンファレンス等で本人の好みやできる事の把握に努めている。日常のケアを行う際に残存機能の活用や本人のペースでの生活環境の提供等実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1のミーティングやプラン更新時、本人・家族の意向を確認した上で担当職員や主任、リーダー、管理者とカンファレンスを行いプラン作成を実地している。		家族の意見を確認したうえで、短期目標のチェック表やモニタリング内容をもとに介護計画の見直しを行い、状態変化時はその都度内容を検討し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を経過記録に記入し職員間での共通理解に努めている。サービス内容実施記録を毎日確認する事で適切なサービスが提供されているか確認をしている。月1回のモニタリング、評価等実施しケアプラン変更・更新等実施している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が転倒・骨折をした際に系列病院の理学療法士指導の元看護師が中心となり機能訓練を実施している。家族が遠方に住んでいる利用者の入苑の支援に際し自宅管理の為の支援を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室など馴染みの店に出かけたり、地区で行われている百歳体操や行事等に参加していたが、現在はコロナの影響で支援が難しい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医を利用しているが、必要に応じて家族と相談し専門の医療機関を利用している。	本人及び家族が希望する入居前からのかかりつけ医、または協力医の往診による定期受診の支援を行っている。急変時等は、法人医療機関に連絡し、指示を受けて適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化に気づいたら小さな事でもすぐに看護師へ報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書にて報告し、病院の相談室と連携している。退院の許可が下りた際は速やかに入苑できる様に支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りはしていない為、当苑でできる範囲内で本人や家族の意向に沿えるように医療機関との連携を図っている。また、緊急時の対応に関し家族全員に意向確認を実施している。	重度化した時の対応については、入居時に本人・家族にできることできないことの説明を行い同意をもらっている。医療的対応が必要な状態の時は、家族の意向等を確認し入院または他施設への入所等の支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や勉強会などで急変時の対応が実践できるように定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。火災だけでなく地震や水害を想定した訓練も実地しており、マニュアル作成やハザードマップの把握、備蓄品の準備にも取り組んでいる。	火災だけでなく地震、水害等も想定した訓練を実施している。過去の水害を教訓に、床の高度が高い隣接の小規模多機能型居宅介護施設を利用する避難体制等の確認が行われているが、災害の規模によっては安全性が高い避難場所とは言い難い。	近くに一級河川が流れており、大雨による氾濫等が想定されるので、隣接の施設では安全性が担保されない場合の避難場所、避難の判断基準等の検討を行い、より安全な支援が行われることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちや性格、生活歴などを考慮しその人に合った声掛けやケアを行っている。ミーティングや勉強会などで定期的に自尊心を傷つけない対応をするよう呼び掛けている。		接遇研修や認知症ケアの研修等で介護の基本を身につけ、間違いを否定しないなど誇りやプライバシーを傷つけない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の着替えを自分でして頂いたり、外出支援の際自分で好きなものを買って頂いたりなど、できるだけ自己決定ができるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースに合った活動や生活ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に行きつけの美容室を利用したり、化粧や髭剃りなど、個々に合わせた支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にテーブルを拭いて頂いたり、職員と一緒に食事の後片付けを手伝って頂いたりしている。月に何回か利用者がリクエストしたメニューを提供する事もある。		食事が楽しみなものになるよう、行事食や利用者の好みを取り入れた食事を提供している。職員も一緒に食事をし、必要に応じ食事介助を行うなど利用者の食事の様子をうかがいながら、必要な支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量をチェックしながら足りない方はお茶ゼリーの提供などで対応している。食事量についても摂取量が少ない場合は主治医と相談して栄養補助食品を提供する事もある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回職員が声掛けをして一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定時でのトイレ誘導を行っているが、訴えがある時もその都度対応している。		排せつのチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、必要に応じて誘導や介助を行い、トイレでの排せつを支援している。立位の保持が困難な利用者も、昼間は二人介助でトイレでの排せつが行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂る、ヨーグルトなど排便を促す食品を取り入れる。適切な運動をするなど利用者に応じた予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっており、時間や順番は利用者へ声掛けを行ってから入浴して頂いている。また入浴剤を利用して楽しんで頂く時もある。		週2~3回午前中に入浴介助を行っているが、入浴を拒む場合は、時間をずらして午後に入浴の促しを行い介助するなど、支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室へ戻られ休んで頂いたり、体力面を考えて午睡の時間を設けている方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から薬の用法や副作用など説明を受けており、症状の変化に気を付けている。また誤薬防止の為に確認を怠らないようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな物を家族に依頼したり、買い物支援で購入したりしている。在宅時よりしていた趣味や活動(園芸、大正琴、編み物など)を職員も一緒に取り組んでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある際は認知症の程度に関わらず家族や職員対応で定期的な外出や一時帰宅を行っているが現在コロナの影響で中断している。		季節ごとに花見に出かけたり、日常的には、ホームを出て散歩に行くなど、戸外に出る機会をつくり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っているが、希望される方は家族と相談し、自分で管理して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会ができない他施設に入居中の友人への電話を支援している。また、携帯を持っている方もおり家族や友人に自ら連絡を取っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の音楽やコント番組を流す事で居心地の良い環境作りに努めている。また、季節ごとにディスプレイを変えて、利用者手作りの折り紙や作品を飾り、季節の移り変わりがわかるような環境作りを行っている。		食堂・居間は、食事とくつろぐ場がはっきりしており、利用者が気分に合わせて過ごせるようになっている。中庭からの自然の光が生かされ、季節の飾りつけや自然を感じられるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが気の合う方とソファ等で過ごされ、会話を楽しんだり一緒にテレビを鑑賞したりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や趣味の道具を持ってきて頂いたり、昔の写真などを飾ったりして本人が居心地良く生活できるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりやすい、転倒防止などその人の身体機能に合った椅子やソファを使用している。			